

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年7月6日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970100271		
法人名	社会福祉法人 長い坂の会		
事業所名	グループホーム ほのぼのの家		
所在地	高知県高知市朝倉丙1633-17		
自己評価作成日	平成23年5月10日	評価結果 市町村受理日	平成23年7月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は静かな住宅地の中にあつて、家庭的な雰囲気大切にしている。母体である医療施設も近くにあり、医療連携や受診の際の送迎の協力もある。地域の行事には積極的に参加しており、公民館での陶芸教室や夏祭り、地区の運動会や一斉清掃、地元保育園との交流会などを通して、利用者一人ひとりが地域の一員としていきいきと暮らしている。定期的にボランティアや学生アルバイトなど、外部の方々の協力も得ながら支援している。また、家族との信頼関係を大切にしており、年間行事や3カ月毎のサービス担当者会に参加、協力してもらうとともに、定期的に写真入りの行事報告や便りを渡したり、何気なく日々の暮らしぶりを伝えることで、家族も大変喜ばれている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokouhyou.jp/kaijosip/infomationPublic.do?JCD=3970100271&SCD=320&PCD=39
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成23年6月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、法人母体の医療機関が近くにある住宅地に立地している。職員は、利用者一人ひとりのこれまでの生活歴や経歴等を把握し、毎月の職員会で個別支援などについて話し合い、お茶を点てたり、毎週花を活け替えたり、作品展に向けた作品づくりなど、利用者の趣味や好みに合わせた場面づくりをしているほか、公民館や近隣の福祉施設でのクラブ活動にも積極的に参加し、利用者がその能力を發揮できるように支援している。近くの保育園児と相互に交流したり、地域の運動会や清掃活動、防災活動に参加するとともに、事業所の作品展や避難訓練に地域住民の参加があるなど、地域に溶け込んでいる。また、傾聴ボランティアや高校生のクラブ活動、大学生の社会体験、介護実習生などを積極的に受け入れたり、家族との信頼関係を築きながら、日々のケアにつなげている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名： ほのぼのの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目につくところに貼ったり、毎日朝の申し送り時に唱えている。職員は常に理念に立ち返ることを心がけ日々のケアに取り組んでいる。	地域密着型サービスの実現を目指した事業所独自の理念があり、新任職員には法人の理念と併せて周知するとともに、毎月の職員会で理念を振り返りながら個別支援などについて話し合い、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の自治会に入会しており、地区の運動会や夏祭り、一斉清掃にも積極的に参加している。また、ホームの作品展や防災訓練、餅つきなどの行事を通して地域の方や保育園児と交流している。	運動会や清掃、防災訓練などの地域活動に参加するとともに、事業所から地域新聞を発行したり、作品展への住民参加を呼びかけたりしているほか、軽費老人ホームや保育所と相互に交流している。また、地域住民から野菜のお裾分けがあるなど、地域に溶け込んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの行事や防災訓練等に地域住民に参加してもらい、認知症について理解してもらうとともに、介護実習生の受け入れなども積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催し、ホーム内の状況を報告し、委員の意見はサービスに活かしている。	利用者の状況や運営状況、目標達成計画や実地指導への対応などについて説明し、参加委員と意見交換を行うとともに、委員から地域の情報などの提供を受け、運営につなげている。	会議の運営に当たっては、直面する課題等について優先順位をつけて議題にあげるなど、運営推進会議の更なる活用を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地区のグループホームとの勉強会や交流を通じて相談したり助言をもらう関係を築いている。また、利用者の個別事例のケアなどについて相談している。	運営推進会議を通して、事業所の実情を理解してもらったり、困難事例について相談するなどしている。また、グループホーム連絡会や実施指導などの機会を捉えて、関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1度、身体拘束委員会において事例の検討や個別ケースの対応などについて話し合い、具体的な禁止行為を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月の職員会で身体拘束に関する話し合いの場を設け、言葉による行動抑制も含めて話し合っている。日中は玄関には鍵をかけず、外出傾向のある利用者には、さりげなく声かけて納得してもらったり、同行するなど見守り支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に積極的に参加し、理解を深め、職員に周知徹底している。なお、利用者が外泊から帰った時は、家族から外泊時の様子を聞くようになっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用している事例もあり、職員は研修等に参加し理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約内容や重要説明事項により、十分な説明を行い、家族の理解と同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との日々の関わりの中で意向を把握し、その都度職員間で検討し、ケアに取り組んでいる。玄関に意見箱を設置したり、敬老会等の行事の後に家族と懇談する機会を持つとともに、面会時には必ず声かけをして意見や要望を聞いている。	家族会は行事に合わせて年2回開催し、多くの家族の参加がある。家族のみで話し合う機会も設けているが、これと言った意見は出されていない。面会時や電話等で意思疎通を図り、個別に要望を聞いたり、何気ない会話の中から意向を汲み取り、職員間で共有しながらケアにつなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の処遇会には施設長が参加している。職員の意見や提案を代表者に直接伝え、検討、協議を行い運営に反映させている。	管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを図るとともに、毎月の職員会には施設長（法人役員）も加わり、出された意見や提案について話し合っている。職員体制の確保や経年による建物設備の改修、家族の要望（居室トイレのバリアフリー化）への対応など、法人にも相談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務の見直しを行っている。経験年数に応じた給与の見直しや資格取得手当が出てくる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が希望する外部研修にはできるだけ参加するよう配慮したり、定期的開催される法人内研修に計画的に参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2カ月毎に西部地域グループホーム連絡会に参加し、情報交換等を行いサービスの向上に活かしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には入居者の心情を考慮し、不安等を解消してもらうため、傾聴等に心がけ、その人らしさを見つけ安心してサービスを利用してもらうよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の見学時には、家族の立場に立ち相談を受け、要望等を受け止めることにより、入居時の不安を解消してもらうなど、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望をもとに、何が必要であるかを見極め検討したうえで、できる限りの支援や適した外部サービスの情報提供もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のレクリエーションや会話等を通じて、入居者に寄り添い、共有する時間を持つことにより、親密な関係を築いている。干し大根作りなど昔ながらの生活の知恵や工夫などを教えてもらうこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>行事や日々の出来事等を家族に電話や便り等で報告したり、行事や受診の際の同行、サービス担当者会への参加などを通して、共に支え合っていく関係を築いている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>昔なじみの方の面会に気軽に訪れてもらい、落ち着いて話ができる場所を提供したり、昔を思い出せるような雰囲気づくりに努めている。また、家族との協力でふるさと訪問や自宅で家族と数日過ごすなどの機会を設けている。</p>	<p>友人や親族の面会を受けたり、ドライブがてら出身地に出かけたりしている。また、家族の協力も得て思い出の場所等に出かけるなど、これまでの関わりが継続できるよう支援している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者同士の間関係を把握し、食事の席の見直しや気の合う者同士でゆっくりくつろげる場の提供を心がけている。対人関係を上手く取れない時には孤立しないよう職員が間に入ったり、周囲の雰囲気にも配慮し、安心して過ごせる場を確保するなど支援している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居後もいつでも相談してもらおうよう伝えたり、家族や関係機関より情報を得て、職員間で共有している。また、入院先に利用者と一緒に見舞いに行ったりしている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>サービス担当者会で本人の意向をあらかじめ聞くとともに、日々の暮らしの中でその都度希望を聞いている。思いを上手く表現できない方には、家族の話や本人の表情などから感じ取りながら、理解するように努めている。</p>	<p>職員は、利用者一人ひとりの生活歴等を意識しながら日常の関わりの中で、やりたいことや行きたい所などを問いかけ、暮らし方の意向を把握している。また、状況に応じて家族に相談したり、表情等からその思いを汲み取るなど工夫している。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前の面談の際に、本人や家族からこれまでの暮らしや経過などについて聞き取り、心理社会面からの利用者理解の項目に沿ってアセスメントを行い、職員間で共有している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	可能な限り家事等への参加や役割分担を担ってもらい、個々のできる力を把握したり、心身の状態変化や職員の気づきなど、毎日の申し送り時に確認し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3カ月毎のサービス担当者会には、家族、入居者本人、職員が参加して話し合い、関係者全員の意見を反映しながらケアプランを作成している。状況に応じて医療分野の関係者から助言を得て、プランに盛り込んでいる。	日々のケアの実践状況を把握するとともに、職員担当制によるモニタリング、気づきなども踏まえ、家族の参加も得ながらカンファレンスを行い、介護計画を作成している。計画の期間は3カ月を基本に、利用者の状況等に応じてその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子やプランに沿った実践状況などをパソコンに入力している。朝の申し送り時には出勤職員が前日の状況等を共有し、ケアにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の病状に応じた医療機関での受診や、外部の送迎サービス等を利用して経費の削減につなげたり、その時々ニーズに柔軟に対応している。また、訪問美容や傾聴ボランティアなどの受け入れもしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各分野のボランティアや実習生を積極的に受け入れている。地域の行事(地区運動会、公民館の陶芸教室、夏祭り)にも参加し豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。また、防災訓練には消防署や近所の方の参加を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族の希望する医療機関を基本とし、特に希望のない場合は協力病院にて診療を受けている。必要に応じて受診時に排泄状況などの情報提供をしたり、主治医の指示事項等は全員に周知している。また、近くの歯科医の往診も受けている。	利用者、家族の希望に沿って、これまでのかかりつけ医や協力医に受診できるように支援している。家族の通院介助を基本としているが、家族の都合によっては職員が対応し、ヘルパー付きの介護タクシーや協力病院の送迎バスを利用するなどの工夫もしている。受診結果は介助者から報告を受けたり、主治医に確認している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師から健康管理面の助言をもらったり、状況の変化に応じていつでも連絡、対応できる体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、家族とも連絡を取り合い、担当医や看護師と病状や退院見込みなどについて情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りの対応は、法人の方針として、母体の医療機関で支援することになっている。入居時に家族に説明し、同意を得ている。	入居時に、重度化や看取りについては医療機関で対応していく方針を説明し、家族から同意を得ている。これまでも利用者の状況に応じて入院するように支援している。	自宅や医療機関で終末期を迎える場合でも、家族の負担軽減などの支援も看取り対応に含まれるので、事業所のできることにについて話し合い、職員間で共有しておくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて全ての職員は応急手当や初期対応の訓練や研修を通して実践力を身につけている。また、緊急時対応マニュアルを目に付く所に貼っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練には地域の方にも参加してもらっている。消防署の指導により消火設備の点検を行っている。非常用の食料、飲料水、備品を準備している。地震対策についても、研修会に参加し学習している。	地域の自主防災活動に参加するとともに、事業所の防災訓練には、近隣の住民に交替して参加してもらうなど、地域ぐるみの防災体制づくりに取り組んでいる。非常用食料等の準備もできている。また、管理者は、法人の地震対策の研修会に参加し、食器棚の転倒予防などの必要性を意識している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月1回の処遇部会にて言葉かけや個人別の対応について話し合っている。入居者を年長者として敬い、プライバシーを損ねない対応に留意している。	毎月の職員会で、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応等について話し合っており、排泄支援などの場面では、あからさまな声かけや、失敗時のさりげない対応に配慮している。また、管理者は、運営推進会議の議事録公開に当たっての個人情報の扱いについても課題意識を持っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で、入居者の思いや希望をその都度聞き出したり、自分で決めてもらうことを常に心がけている。表出が困難な場合は職員から声かけして選択してもらうよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の業務を優先するのではなく、本人の希望や生活のペースに沿った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月1回、ビューティーボランティアから美容を受けたり、お化粧の習慣がある方は化粧道具の確認を毎日行っている。また、特に大事にしている衣類はクリーニングに出したり、季節の衣類の入れ替えの支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は、畑で育てた季節の野菜や近所からのお裾分けの野菜も食材にしながら、調理の下ごしらえや後片付けなども一緒に行っている。また、職員は入居者と同じテーブルと一緒に食事をしている。	法人の管理栄養士の献立を基本に、利用者の嗜好なども聞きながら、多彩な食材を摂取するよう工夫している。事業所の畑や近所からのお裾分けの野菜も食卓にのせ、利用者は能力に応じて干し大根や調理の下ごしらえ、盛り付けなどを職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量のチェックを毎日行うとともに、毎月定期的に体重測定を行っている。体調や好みに応じて個別の食事形態を考慮している。水分摂取が少ない方には好みの飲み物を提供するなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕食後の口腔ケアを介助や見守りをしながら支援している。夜間は義歯を洗浄剤で洗浄している。また、訪問歯科の口腔ケアの指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者個々の排泄パターンを把握し、その都度トイレ誘導を促している。オムツやパッドの見直しが必要な場合は処遇会で検討している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、尿意の仕草などにも注意しながらできるだけトイレで排泄するよう支援している。夜間のみポータブルトイレを使用したり、身体状況等に応じて居室のトイレや共用トイレを使用するなど、個別に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行っている。繊維の多い食材やヨーグルトを摂ることや水分摂取を心がけ、午前中は全員でいきいき百歳体操を毎日行うなど、便秘予防に取り組んでいる。また、状況に応じて協力病院と連携しその方にあつた下剤の見直しをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	本人の希望に沿って、平均して3日に1回は入浴してもらうよう支援している。拒否がある方は比較的対応しやすい午前中に入浴するなど工夫している。	利用者の希望に沿って午後の時間帯に入浴を支援している。入浴拒否がある場合は強いることなく、誘い方の声かけなどに工夫しながら入浴につなげており、利用者は全員概ね3日に1回は入浴している。また、シャワー浴や午前中に入浴など柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じて自室で昼寝したり、一人ひとりの生活習慣に応じた時間に就寝している。寝具は定期的に天日に干し、週に1回はシーツ交換を行い、清潔なベッドで気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援は複数の職員がチェックしながら対応している。定期薬の変更がある場合や病状の変化がある場合は必ず毎日のミーティングで確認している。また、日誌にも記載し全員に周知できる体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の経歴や生活歴、得意なことなどに応じて、生花や茶道、陶芸作品作りや野菜づくり、少人数でのドライブや週に1回の買物の日は好きな物を自分で購入できるような機会を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の散歩については希望に応じて日常的に行っている。また、家族の協力によりふさと訪問や自宅に泊まって家族と数日過ごしたりしている。定期的な車での外出は、大学生のアルバイトや介護実習生の協力を得て支援している。	散歩や買物は利用者の希望に沿って支援しているが、個別対応が困難な実情もあり、家族や介護実習生、ボランティアの協力を得て散歩したり、少人数でのドライブや花の水やりなどを通して外気に触れる機会を設けている。また、法人のバスを利用して季節の花見や行楽に出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で小遣いを管理している方もいるが、自己管理ができない方はホームで預かっている。外出や買物の際は、本人に支払ってもらったり、職員が代わって対応するなど支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って、家族や知人等との電話や手紙の取次ぎを行っている。また、家族から専用の携帯電話を預かっている方は取次ぎや操作などの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除を入居者と一緒に行っている。日々の暮らしの写真や季節の花を飾り、親しみやすい雰囲気づくりを心がけている。リビングには懐かしい曲を流したり、常に適温、適湿の管理に努めている。特に、冬場は加湿器で湿度を40パーセント以上に保つようになっている。	リビングや廊下の壁には利用者のぬり絵や飾り物、折り紙や行事の写真、高校生と共同で作ったカレンダーなどを貼り、ソファや畳敷きなどで利用者がゆっくりつるげる空間となっている。また、玄関のポーチやテラスには花を活けたり、花鉢を置くなど、季節感や和みの雰囲気づくりに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者それぞれが好みの居場所があり、思い思いに過ごせる環境に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や使い慣れた寝具などを持参している。居室には自分で作った作品などを飾るなど、その人らし居心地のよい工夫をしている。	居室は畳敷きとフロアがあるが、いずれもベッドが備え付けでトイレも整備している。利用者は、家族と相談しながら寝具や衣装ケースのほか、身の回りの品物やテレビなどを置いたり、家族写真やクラブ活動で作成した作品、好みのタレントの記事を貼るなど、その人らしく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の方にも使いやすい洗面所の改修やスロープの設置などの環境整備を行い、安心して暮らせるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				